

## 9.18.19 町内会自治会連合会会長研修会

掛川市清掃工場と浜岡原子力発電所を視察した。

18日は静岡県掛川市の掛川市菊川市衛生施設組合の環境資源ギャラリーを見学した。ここは掛川市（人口約13万人）菊川市（人口約5万人）の両自治体が組合を作って運営している清掃工場である。

連合会は過去に新潟県長岡市、群馬県前橋市などでリサイクル清掃工場や小規模水力発電所、風力発電所などの研修を実施した。

環境資源ギャラリーという名称は清掃工場に「容器包装博物館」と「リサイクル施設」と「ガス化熔融施設」の三つの施設を運用しているからである。

ゴミになるようなものは手に入れない。できるだけゴミを出さない。それでも出てきたごみは分別して資源物を回収し、そのうえで残ったものだけを環境資源ギャラリーで再資源化処理する目的で造られている。

この工場は敷地面積 47,143 m<sup>2</sup>、工場面積 5,229 m<sup>2</sup>、管理棟 809 m<sup>2</sup>と町田市の新工場に比べると非常に小さい。建設費用は約74億円、運転コストは年間約13億円である。発電設備はキルン式ガス化熔融炉をもちいて24時間で140tの消化能力を持っている。蒸気タービンによる発電設備で清掃工場において使用する電力の約6割をまかなっている。不足の電力は中部電力からの供給に頼っている。

静岡県中部という地理的な問題でもあるがもう少し大きな工場を造らないと効率は上がらないと感じた。

19日には御前崎市の中部電力御前崎、浜岡原子力発電所を見学した。ここでは1号機2号機の原子炉は廃炉作業中である。3.4.5号機は再稼働に向けて作業中である。原子力発電設備は1基あたり110万kwの発電能力を持っている。

ここでは東日本大震災の福島原発の被害の経験を踏まえていかに災害に強い原発を造るかについて説明された。昨年の会長研修会においては福島県に行き、原子炉対策の現状と今後の見通しを勉強してきた。廃炉については東電の説明と違って、どれだけかかるか経済的にも時間的にもやってみなくてはわからないというのが現実だと感じた。浜岡原発では22mの高さの実物大防波壁模型を造って展示していた。東日本大震災では14mの津波が福島第一原発を襲ったが、東海大地震では20mの津波が来ることを想定して設備を造っている。浜岡原発の地下15mには

強固な岩盤があり、ここに杭を打ち込んで22mの防波壁を支える構造になっている。

もしも防波壁を超えて浸水があった場合も、可動式の防水鋼板がある。厚さ40cm重量40tの鋼板で防水するようになっている。この鋼板は電力が使用できない場合を想定して2、3人の人力で動かせるようになっている。さらにもう1枚の鋼板でふせぐような三重の安全構造になっているとのことであった。

昨年の福島原発、さらには鶴川地区町内会自治会連合（鶴連）では10年前に柏崎刈羽原発の見学を行っている。3か所の原発見学を通じて問題が2つ考えられる。

1つはテロリストの攻撃に対して無防備である。民間のガードマン会社に警備を委託しているが不十分。

もうひとつは放射性廃棄物の処理の問題である。青森県六ヶ所村で中間

処理を行っているが、最終

処理をどこで行

うかが決まっ

ていない。これ

はトイレのない

家を造って

いるのと同じ

ことである。原

子力発電の電気

は使うが廃棄

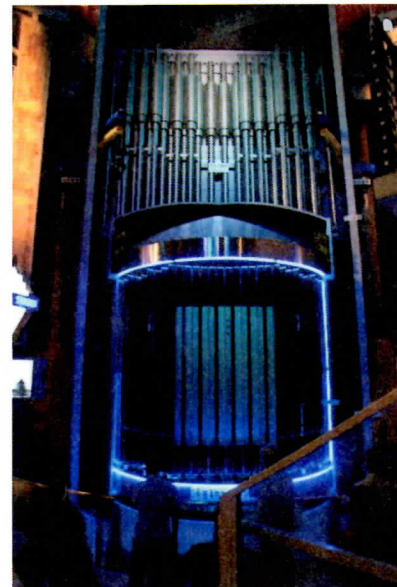
物の処理は

イヤ、ゴミは出

すけど清掃工場

はイヤ、で通る

問題ではない。現在われわれが当面している重要課題であるということを感じさせる会長研修会であった。



浜岡原子力発電所 原子炉実物大模型

これ一機で110万kwの発電能力を持つ

問題ではない。現在われわれが当面している重要課題であるということを感じさせる会長研修会であった。



## マレットゴルフの紹介

社会的に少子高齢化が到来してきた現在、簡単に誰でも何処でも安く年齢を問わず、自然の中で気軽にできるスポーツです。

ルールはゴルフとほぼ同じですが、クラブはゲートボールに似た金属製クラブ一本と樹脂製ボール（径 75mm）を打ち転がしてカップインさせるものです。みんなで歩けば小鳥のさえずりを聴きながらボールを追って行くことができ、ゴルフのショートコースほどの広さで楽しめます。

故に三世代スポーツとして仲間同志のグループが増えてきています。

現在町田市の体育協会に登録されています。

### 手造りコースの歩み

ニュースポーツとして注目されるマレットゴルフは、32年前に福井県で考案され、レクリエーションスポーツとして地域住民に普及していきました。

長野県でも楽しまれており、19年前に長野県の知人から町田のゲートボール仲間が持ち帰ってきました。その後、工夫を加えながら9ホールを手造りして自治会仲間を集め、狭いながらも楽しい雰囲気でも継続されてきました。



さらに他県の競技場を調べ出向くようになり、特に神奈川県藤野にマレットゴルフコースがあり練習を重ねてきました。東京都江東区や横浜市シンボルタワー等の競技会にも参加してきました。

愛好者が増え、8年前に町田市マレットゴルフ協会を結成することになりました。

町田市にもマレットゴルフ場を設けてもらいたく、スポーツ振興課に再三要請してきました。

### 小山田にコース

9年前に、町田市から小山田の町田市リサイクルセンターの広場使用許可をいただき、その地形を生かし手造りで18ホールを設置することができました。しかし、せっかくの競技場がセンターのリニューアル工事の為、閉鎖になってしまいました。

### 南地区にもコース

南地区の金森中央スポーツ広場では、他グループと調整し週3回、プレーをしています。

また企業の空地进行期間限定で9ホールを手造りしました。



### 野津田にもコース

これまでの実績が評価され、4年前に野津田公園内に18ホール分の場所使用が許可され、コース計画に基づいて設置することができました。

続いて翌年11月に9ホールが追加されることになりました。コースで練習を重ねていると、時間が経つにつれ芝の成長がより自然になじむようになり、更に今年7月から9ホールが増設され36ホールになりました。

全体で36ホールになり他県と肩を並べるコースになりました。

しかし、交通の便が悪く、車の使用が必要となります。



使用は月曜日から金曜日で午前8時30分～12時まで、広場には体験学習室もあります。使用申し込みは管理事務所までお問い合わせ下さい。

使用料（プレー代）は200円

体験の場合は用具を貸出します。用具使用料300円

野津田公園管理事務所（042-735-4511）

編集委員 火ノ川 待雄